

核戦争防止 兵庫医師の声

第 91 号 2014 年度 秋号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒 650 - 0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会内

電 話 078 (393) 1807

振 替 01130-6-57830

反核医師の会が総会を開催

“当事者の言葉” から実態見抜く

アーサー・ビナード氏が記念講演



平和の大切さを訴えるアーサー・ビナード氏（左上）の講演に参加者は聞き入った

核戦争を防止する兵庫県医師の会（反核医師の会）は、7月27日に協会会議室で第33回総会を開催した。記念講演では詩人のアーサー・ビナード氏が、「アーサー・ビナードが語るピカドンが教えてくれたこと」と題して講演を行い、会員・市民ら175人が参加した。

アーサー・ビナード氏は講演でまず焼夷弾についての問題提起をした。東京大空襲の際に東京の町を焼き尽くした焼夷弾は、「ナパーム弾」と名前を変えて、朝鮮戦争では東京大空襲の2倍、ベトナム戦争では朝鮮戦争のさらに5倍の量が使われた。「ナパーム弾」という語を用いたのは、焼夷弾という名を使うことで日本国内において戦争反対の運動が高まることを、米国が恐れたためだと指摘した。

また、ビナード氏は広島に行って衝撃を受けたこ

とを話した。聞き取りをした被爆者はみな原爆のことを「ピカ」や「ピカドン」といっているが、これは爆心地からの距離の違いによるものであるとされた。爆心地からの距離が近かった人は爆発の音を聞く前に気を失っていたからであり、このことから爆風がどれほどの速さで襲ってきたかが見て取れる。

加えてビナード氏は、米国では子どもたちに「原
2面へつづく

1 面からつづく

爆は太平洋戦争を早く終わらせるために使われた」と教えられるが、これは嘘であると指摘した。広島に投下されたウラン型原爆はすでにでき上がっていたにもかかわらず、長崎でのプルトニウム型原爆が完成するまで投下が引き延ばされていたという事実があるとした。

講演を通じてビナード氏は、物事は当事者の言葉で考えることで本質が見えてくるということを訴え

た。集団的自衛権の本質も「積極的平和主義」という言葉で包まれているので、国民がその実態を見抜くようにしなければならないとした。

総会議事では、代表に郷地秀夫協会副理事長が、運営委員長に近重民雄協会理事がそれぞれ再任された。また、来年4月に開催されるNPT再検討会議に、代表を派遣することを確認した。

核戦争を防止する兵庫県医師の会 第33回総会

2013 年度活動報告と 2014 年度活動方針

(1) 本会は、設立総会開催(1982年7月)から32年を迎えました。

設立以来、非核・反核の情報交流につとめてきました。諸活動としては、会報「医師の声」の発行、反核パネルや反核リーフレットの製作・普及、反核平和映画の製作協力や貸し出し、被爆者の会への援助、各地の医師の会との交流、IPPNW(核戦争防止国際医師会議)の世界大会と地域会議への代表派遣、県内の反核平和団体との協力などを行ってきました。また、本会独自の反核展の開催などを通じ、核兵器廃絶を願う草の根の団体として患者・県民に医師の立場からの働きかけを行うなど、継続して活動してきました。結成当時198人であった会員数は、86年には500人を超えましたが、高齢・病気等による会員の退会などで、現在243人となっています。

(2) 2013 年度の活動

①第32回総会では記念企画として「再稼働される原発のリスクと再生可能エネルギーの世界

の情勢」をテーマに、民間事故調(福島第一原発事故独立調査検証委員会)委員長／内閣官房事故調提言フォローアップ有識者会議座長／独立行政法人科学技術振興機構前理事長の北澤宏一先生による講演を開催、76人が参加しました。

②「第24回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 北海道」には、4人が参加しました。

③全国反核医師の会が主催した「日韓反核医師交流の旅」には、加藤擁一運営委員が参加しました。

④原爆症認定集団訴訟では、引き続き事務所・連絡先を引き受けるなど、支援ネットワークに協力し積極的役割を果たしました。郷地秀夫代表が各地で講演活動を行いました。

⑤2013年原水爆禁止世界大会(8月7日～9日・長崎)に川西敏雄運営委員が参加しました。国民平和大行進(兵庫県内行進7月7日～16日)にも、武村義人、小泉勇両運営委員や榎林

2面からつづく

義雄先生などが参加しました。

⑥第32回兵庫の「語りつごう戦争展」(2013年12月15日)の協賛団体として、協賛金の拠出などを行いました。池内春樹運営委員が呼びかけ人をつとめています。

⑦非核「神戸」方式38周年記念集会(2014年3月18日)に参加・協力しました。

⑧非核の政府を求める兵庫の会にも引き続き協力し、市民学習会「イラク人質事件・今井紀明さんが今明かす『自己責任』攻撃乗り越え、若者支援へ」(2013年9月7日・講師:今井紀明・NPO法人D×P共同代表)、「オキュパイラブ」上映会(2013年12月7日)、『『究極の選択』を強いたのは誰か 原発賠償訴訟の問うていること』(2014年4月5日・お話:森松明希子・原発賠償関西訴訟原告団代表・中島宏治弁護士・津久井進弁護士)を行いました。また、総会では、記念上映会「はだしのゲンがみたヒロシマ」(2014年2月1日・ミニトーク:渡部朋子氏・ANT-Hiroshima 理事長)を行いました。現在非核の政府を求める兵庫の会の医師会員は80人となっています。郷地代表、小泉運営委員が、常任世話人を務めています。

⑨九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みました。

(3) 情勢

2010年5月、世界190の国々が参加する核不拡散条約(NPT)のもとで5年に一度開催される「再検討会議」は、一致して「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを宣言しました。来年4月27日には次回のNPT再検討会議が開催されます。これに向けて、国連は、昨年9月、史上初めて核軍縮をテーマに、ハイレベル会合を開きました。この会合を受けた決議は、核兵器の開発、製造、実験、使用な

どすべてを禁止し、廃絶する条約の交渉を緊急に始めるよう呼びかけています。

NPTの下では、190の締約国中185の国々が、核兵器を取得も開発もしないとしています。中国と非締約国のインド、パキスタン、北朝鮮が「全面禁止条約」の交渉開始に賛成しています。しかし、核保有国は、核兵器を「抑止力」とする政策をとり、禁止条約の交渉開始に踏み出そうとしていません。

こうした中、唯一の戦争被爆国として、本来なら核廃絶の先頭に立つべき日本政府は、国連などでの核兵器禁止の提案にはことごとく背を向けてきました。昨年10月に、4度目に提案されてようやく賛同した「核兵器の人道的影響に関する共同声明」についても、岸田外務大臣は「拡大抑止を含めた我が国の安全保障政策に変更は全くありません」と述べ、アメリカの核の傘の下に日本を置き続けると明言しています。

いま安倍政権は、自衛隊を海外に派兵して、米国とともに武力行使ができるよう、特定秘密保護法の制定、武器輸出三原則の見直しなどを進め、集団的自衛権の行使を容認しようとしています。

また、安倍政権は福島第一原子力発電所事故に端を発する脱原発の世論の盛り上がりにも背を向け、停止中の原発の再稼働に躍起になっています。

こうした「核兵器ノー」「脱原発」の世界の市民社会の流れに逆行する政治を変えて、日本を核兵器全面禁止のイニシアチブをとる国へと転換させるためいっそう活動を強めましょう。

(4) 2014年度の重点課題

①交戦国の核攻撃を受けた唯一の被爆国の医師

として、また、人命を守る医師の社会的責務を自覚し、医師らしい創意ある活動を進めます。

②被爆者との交流と援助活動を進めます。特に被爆者医療の取り組みを重視し、原爆症認定被爆者集団訴訟を支援します。

③核実験に反対し、核兵器廃絶を求める国際的世論と共同し、運動していきます。

④講演会の開催など、医師として運動を社会的にアピールする取り組みを進めます。特に医療関係者と次世代への「語り継ぎ」を課題に、医学生などへの働きかけや市民向けの企画も随時開催していきます。

⑤ 2014 年に福岡で開催される「第 25 回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 福岡」に参加します。

⑥ 2015 年 4 月 27 日から開催される NPT 再検討会議に代表を派遣します。

⑦日本医学会総会 2015 関西にあわせて開催される「医の倫理—過去・現在・未来—」実行委員会に参加し、協力します。実行委員に池内運営委員が就任しています。

⑧非核の政府を求める会・非核神戸方式記念集会実行委員会など県下の反核諸団体との交流・協力を一層強め、これらの団体の取り組みの成功にも協力します。

⑨九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みます。

⑩会報「医師の声」の定期発行と、学習・講師派遣活動、反核 DVD や原爆パネルの貸し出しなどを積極的に進めます。

⑪会員を増やすため引き続き加入を呼びかけます。



■創立以来の会員数

1982 年 7 月	198 人
1983 年 7 月	363 人
1984 年 7 月	385 人
1985 年 7 月	408 人
1986 年 7 月	506 人
1987 年 7 月	507 人
1988 年 7 月	538 人
1989 年 7 月	543 人
1990 年 7 月	535 人
1991 年 7 月	519 人
1992 年 7 月	504 人
1993 年 7 月	489 人
1994 年 7 月	459 人
1995 年 7 月	446 人
1996 年 7 月	422 人
1997 年 7 月	419 人
1998 年 7 月	412 人

1999 年 7 月	404 人
2000 年 7 月	390 人
2001 年 7 月	380 人
2002 年 7 月	369 人
2003 年 7 月	363 人
2004 年 7 月	350 人
2005 年 7 月	333 人
2006 年 7 月	303 人
2007 年 7 月	291 人
2008 年 7 月	264 人
2009 年 7 月	253 人
2010 年 7 月	265 人
2011 年 7 月	257 人
2012 年 7 月	255 人
2013 年 7 月	246 人
2014 年 7 月	243 人

■核戦争を防止する兵庫県医師の会運営委員

代 表	郷地 秀夫	委 員	加藤 擁一	委 員	西山 裕康
運営委員長	近重 民雄	〃	川西 敏雄	〃	宮崎 義彦
委 員	池内 春樹	〃	小泉 勇	〃	森 達哉
〃	池本 恒彦	〃	幸原 久	〃	柳井 映二
〃	井村 春樹	〃	武村 義人		
〃	内田 敬止	〃	田中 孝明		

2013 年度会計報告

収入の部		支出の部	
会費	200,000	ニュース印刷・発行	41,220
参加費	35,000	総会	223,623
寄付金	15,000	手数料	1,780
		渉外	64,500
繰越金	365,710	繰越金	284,587
合計	¥615,710	合計	¥615,710

会費納入のお願い

〈反核医師の会の会費納入ありがとうございました〉
会費納入がまだお済みでない先生は、納入をお願いいたします。

(9月11日時点でまだの先生には振り込み用紙を同封しております。行き違いの際はご容赦ください)

「戦争と医の倫理を考える」プレ企画

ハルビン、ヒロシマ・ナガサキ、そして福島
一医師・医学者の戦争責任・戦後責任を検証する一

日 時 2015年2月14日(土) 17時～19時
会 場 兵庫県保険医協会 5階会議室
講 師 郷地秀夫 代表

原水爆禁止 2014 年世界大会

核廃絶 思い合わせて

川西・加藤両運営委員が参加



（上）壇上でアピールする全国からの行進者



閉会総会（上）には 7000 人が参加し、アンゲラ・ケイン
国連軍縮問題担当上級代表（右上）が国連代表として発言

原水爆禁止 2014 年世界大会が、8 月 4 日から 6 日にかけて広島市内で開催された。反核医師の会からも川西敏雄・加藤擁一両運営委員、榎林歯科（明石市）の職員 2 人が参加した。7000 人が出席した 8 月 6 日の閉会総会には、国連からアンゲラ・ケイン国連軍縮問題担当上級代表が出席し、発言した。世界大会に参加した川西敏雄運営委員と、榎林歯科の職員西川道子氏の参加記を紹介する。

核兵器と原発 なくす思い新たに 北区・歯科 川西 敏雄

今年は被爆 69 年を数えます。台風 12 号の影響により、43 年振りの雨天での開催となりました。

式辞を碓井広島市議会議長、平和宣言を松井広島市長のほか安倍首相、湯崎広島県知事、アンゲラ・ケイン国際連合事務総長代理、小学生による平和への誓いなどがありました。特に松井市長は安倍首相を前に「唯一の被爆国である日本政府は、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している今こそ、日本国憲法の崇高な平和主義のもとで 69 年間戦争をしなかった事実を重く受け止める必要があります」「また、被爆者はじめ放射能の影響に苦しみ続けている全ての人々に、これまで以上に寄り添い、温かい支援策を充実させるとともに、『黒い雨降雨地域』を拡大するよう求めます。」と平和宣言。しかしそれに対する安倍首相の挨拶は、去年の挨拶

を「コピペ」するなど、極めて中味の乏しい内容がありました。

“原水爆禁止 2014 年世界大会”

4 日開会総会、5 日フォーラム・分科会、6 日閉会総会と三日間開催されました。4 日には兵庫県代表団会議、5 日には保団連懇親会も催されました。分科会などは 18 会場に分かれ盛会となりました。私は“核兵器と原発”分科会に出席しました。

“分科会・核兵器と原発”

ライナー・ブラウン氏（国際平和ビューロー会長・ドイツ）より、今年 3 月よりドイツでは電力がすべて自然エネルギーとなったと報告がありました。ドイツは他国から電力を調達しているのでは？との質問にはきっぱりと、「It's a big lie!」。

吉井英勝氏（元衆院議員・NEER 代表）より、核兵器である原爆などの総数が数万を数え飽和状態となり、原発はその兵器産業の後釜として据えられた。

7 面へつづく

6面からつづく

核の平和利用と称して原発が日本に持ち込まれた、など核の歴史について説明がありました。

福島敦子氏（南相馬市からの避難者）より、現在京都に避難中で、原発賠償京都訴訟にご支援を！と訴え。

紺谷克考氏（函館市会議員）より、大間原発に絡み、自治体訴訟並びに住民訴訟と、大間原発建設予定敷地内で用地買収に応じず建設中止などを訴えている住宅「あさこはうす」の現状について説明がありました。

“まとめ”

被爆をされた方々が当然ながら高齢化し多く亡くなられているなか、原爆症認定訴訟で郷地代表らが奔走されています。しかし政府は控訴を繰り返し、死人に口なしを狙っているように強く感じます。松井市長が平和宣言で訴えたわけですが、安倍首相には社会的弱者を見る目が付いていないのではとまで思いました。

今回は 70 回を数えることとなります。来年もたとえ一日参加でもいいので、多く参加があればと感じました。



原爆の子の像に折り鶴をささげる（左から）加藤擁一運営委員、榎林歯科の内田美登里氏、西川道子氏、川西敏雄運営委員

戦争のない平和な世界求め 行動起こしたい

明石市・榎林歯科

歯科衛生士 西川 道子

原水爆禁止世界大会に、今年で2回目の参加となりました。今回は分科会「映像のひろば」へ行き、図書館や学校の図書室から漫画「はだしのゲン」の撤去を求める要請が全国的に起こっているなかで、被爆の実相を伝える劇映画「はだしのゲン」を鑑賞し、映像の持つすごさを感じてきました。

「はだしのゲン」は初めて観ました。このなかで、ゲンの父親が非国民と罵られても「戦争のない平和な世の中を」と一人だけ正しい意見を訴え、また最後まで自分の意志を貫き通した姿を見て感動しました。

またドキュメンタリー「不毛の地」の製作者で脚本を担当した、オレグ・ボドロフ氏との交流会で、ロシアでは50万人が原子力で亡くなっているが、

ロシア人はこのような事実を知らない、ロシア政府は各被害を隠蔽していることなどを知り、驚きました。国民に正しい知識が伝えられずに、皆が平和で安心に生活することができるでしょうか。

しかし、日本も他人事ではありません。福島第一原発が抱える問題は、3年を経過した今でもなんら解決はしていません。それにもかかわらず、原発再稼働や輸出にこだわっています。

また、2011年8月16日の「日本は核を持つべきとは思わない、だが作ろうと思えば作れる、1年以内に作れる、それは一つの抑止力ではあるでしょう。それを本当に放棄していいですか？」との政治家の発言に、広島・長崎の原爆投下、福島での原発事故がなんら教訓になっていないことに憤りを感じました。

私たちも、ゲンのお父さんのように、正しい意見に声を上げることのできる心の強い日本人になると同時に、何かひとつでも行動を起こしたいと思います。

原水爆禁止 国民平和大行進

“核をなくそう” 歩いてアピール



行進に参加した（左写真右から）松岡先生・医院スタッフ・加藤運営委員、（上写真中央）榎林先生

核兵器廃絶を求め全国を練り歩く「原水爆禁止国民平和大行進」に、加藤擁一・小泉勇両運営委員、榎林義雄・松岡泰夫両先生らが参加した。小泉運営委員は7月8日、伊丹市役所前であいさつにたち、加藤副理事長、松岡評議員は10日に兵庫区から長田区までを、榎林理事は医院スタッフとともに、11日に明石市内を行進した。平和行進は8月4日に広島に到着。原水爆禁止2014年世界大会にも参加した。以下に小泉運営委員のあいさつの内容を掲載する。

伊丹市役所前でのあいさつ 戦前の影感じる今 平和守ろう

伊丹市 小泉 勇

七夕さんと同じく、一年ぶりに元気な皆さんの顔が見られて喜んでいます。

何十万人の国民が言葉で表されない悲惨な死を遂げた核兵器に対して、唯一の被爆国である日本の政府は、今もアメリカの核兵器が「大きな戦争の抑止力」となっているとして、核兵器廃絶条約を核保有国と結ぶべきという世界的な運動に対して腰が引けています。

その上、最近の日本の政府は秘密保護法を制定し、今回は戦後70年にわたって平和を守ってきた憲法9条を無視し、政権による解釈改憲を強行し、自衛隊員の生命をアメリカのする戦争で失わせる集団的自衛権行使容認を閣議決定しました。

これらを強行する首相は、戦争を始めた東条英機首相やナチスのヒットラーの演説に似て、自分の権



あいさつする小泉運営委員

力に酔いしれているように見えました。日本の行く先には戦前の不安な影が感じられる今、国民は力を合わせて、これらの民主主義を破壊する政府の野望を打ち砕きましょう。

ハルビン視察ツアー報告学習会

医学者の戦争責任 直視を

加藤擁一運営委員が講演



医療者の過去の過ちについて問い直すことが大切と語る加藤擁一運営委員（右上）
医師・市民など 80 人が参加（上）

協会は反核医師の会と共催で8月23日、今年5月に行われた「保団連2014ハルビン視察ツアー—戦争と医学を考える」の報告学習会「731部隊の真実と日本の戦争責任」を協会会議室で開催した。同ツアー団長の加藤擁一運営委員が講演し、会場いっぱいの医師・市民ら80人が参加した。

加藤先生は、今回のツアーで旧関東軍防疫水部「731部隊」の遺跡を訪ね、現地で調査・保存活動に尽力している人々と懇談した模様を多数のスライドを提示しながら報告。

731部隊はハルビンで、「マルタ」と呼ばれる中国人らの捕虜で人体実験を行い、ノミを使ったペスト菌散布など細菌兵器を開発し、実戦使用したとされる。現地では、この731部隊の遺跡を保存し、世界遺産登録を実現しようと、遺跡の整備と運動が進められていることが紹介された。

731部隊の戦争責任については、GHQとの取り引きで、米国へ研究データが提供されるかわりに、石井四郎部隊長以下全員の戦争犯罪が免責され、彼らは自己批判することなく、戦後の医学界で重要な

ポジションを得てきたとした。

加藤先生は、ナチスドイツに協力し罪を犯したことを反省する声明を出したドイツ医師会に対し、日本医師会は反省を表明しておらず、日本の医学界は加害責任から目を背けてきたと指摘。731部隊は過去の問題では片付けられず、集団的自衛権の行使容認が閣議決定され、戦争できる国になろうとしている中、医療者が過去に犯した過ちを直視して「戦争と医の倫理」を問い直し、歴史から学ぶことが必要であると訴えた。

本企画は来年4月に京都で行われる日本医学界総会並行企画として予定されている「医の倫理—過去・現在・未来—」のプレ企画としても位置づけられている。



第 16 回反核医師近畿懇談会・講演会ご案内

反核近畿懇談会を下記の通り開催いたします。今回は、元内閣官房副長官補の柳澤協二氏をお招きし、安倍政権が強行した集団的自衛権の閣議決定の問題について、安全保障の専門家の立場からご講演いただきます。なお当日 13:30 から同じ会場にて、医学会総会 2015 年並行企画「医の倫理—過去・現在・未来」プレ企画ゼミ「現在・社会と医学」が開催されますので、こちらもあわせてご参加いただければ幸いです。

■日程 9 月 28 日 (日) / ■会場 京都府保険医協会会議室

● 10:00 ～ 12:00 反核医師近畿懇談会・講演会



「集団的自衛権をめぐる閣議決定が意味するもの」

講 師 元内閣官房副長官補 柳澤 協二氏

「自衛隊を活かす：21 世紀の憲法と防衛を考える会」（略称：自衛隊を活かす会）代表。1946 年東京都生まれ。大学卒業後の 1970 年に当時の防衛庁に入庁。防衛大臣官房官房長、防衛研究所所長などを経て、2004 ～ 2009 年まで内閣官房副長官補（安全保障担当）。イラクへの自衛隊派遣などを監督する。2009 年の退官後は N P O 「国際地政学研究所」理事長などを務める。

● 13:30 ～ 16:30 医学会総会 2015 年並行企画「医の倫理—過去・現在・未来」・プレ企画ゼミ第 2 回「現在・社会と医学」

講義①「終末期医療をとりまく状況と死の自己決定」

講 師 ノンフィクション作家 川口有美子氏

講義②「現代版 A B C C (原爆障害調査委員会) になりかねない東北メディカル・メガバンク構想」

講 師 現代医療を考える会代表 山口研一郎氏



会場：京都府保険医協会

〒604-8162

京都市中京区烏丸通蛸薬師上ル七観音町 637 第 41 長
栄カーニープレイス四条烏丸 6 階

TEL：075-212-8877 FAX：212-0707

地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅⑥出口徒歩 3 分
阪急京都線「烏丸」駅、地下鉄烏丸「四条」駅
22 番出口徒歩 3 分

参加申込

FAX078-393-1802(兵庫県保険医協会・担当岡林) までご返信ください

■第 16 回反核医師近畿懇談会 (9 / 28) ☐参加 ☐不参加

■「医の倫理」プレ企画 ☐参加 ☐不参加

所属団体

氏名



**Physicians
Against
Nuclear War**

第25回

反核医師の つどい

in 福岡

核はいっちゃん好きかん!!

作るばい安全な未来、核なき世界



絵: 西山 進 す

日時 2014年

11月1日土・2日日

場所

都久志会館 《1日目》大ホール
《2日目》4F会議室
福岡市中央区天神4-8-10 ☎092-741-3335

参加費 1日目の記念講演および、学習講演は一般公開です。
一般の方の参加費は無料です。

医師・歯科医師：5,000円／医療関係者：2,000円
医 学 生：1,000円

1
目
目

11月1日土
13時より

記念講演《時間／13：15～15：15》

「憲法を活かす・地球を守る」
伊藤 千尋 氏（朝日新聞文化くらし報道部）

学習講演《時間／15：25～18：20》

「私たちは、東アジアにどう向き合うのか
～日中・日韓関係のこれから～」
繻 厚 氏（山口大学 副学長）

「韓国の原発・核政策と住民運動」
韓国反核医師会の方

レセプション《時間／19：00～》

西鉄イン福岡 13F [BLOSSO]
福岡市中央区天神1-16-1 ☎092-712-5775（直通）

2
目
目

11月2日日
9時30分より

第1分科会《時間／9：30～11：50》

核廃絶と平和問題

「憲法と日本の安全保障」
熊野 直樹 氏（九州大学大学院 教授）

「核廃絶の歴史と現状」
木村 朗 氏（鹿児島大学 教授）

第2分科会《時間／9：30～11：50》

原発と代替エネルギーの問題

「原発問題の現状と今後」
吉岡 斉 氏（九州大学 副学長）

「脱原発と代替エネルギー」
岡本 良治 氏（九州工業大学 名誉教授）

全体会《12：10～13：00》

「第25回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」現地実行委員会
〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-2-3-8F 福岡県保険医協会内 ☎092-451-9025 FAX 092-451-6642

保団連沖縄視察会のご案内

沖縄では、すべての地方議会で反対決議があがり、直近の参議院選挙でも普天間基地の即時撤去、辺野古への移設反対を掲げる候補者が当選しており、県民の総意は明白です。県民の総意を無視した施策を押し付けることは、民主主義の原則に反しています。7月1日に安倍政権は集団的自衛権行使容認の閣議決定を行う一方、辺野古への移設作業を反対運動を押し切る形で強行しています。

集団的自衛権の行使によって、米軍が起す海外での武力行使に巻き込まれることは必至であり、真っ先に標的にされるのは基地が集中する沖縄であり、ひとたび戦闘が起これば観光業を主力とする沖縄の経済も大打撃を受けます。

保団連非核平和部では、沖縄の基地の現状と問題点を学ぶとともに、基地の現状などを目を見て、感じ沖縄県民に連帯した運動を推し進めるために、沖縄視察会を開催します。多くの会員の先生方の参加をお待ちしております。

1. 日 時

2014年11月23日(日) 8:00～

2014年11月24日(月・祝) 11:00

2. 場 所

○視察 沖縄県那覇市、名護市辺野古など

○学習講習会、懇親交流会、宿泊

ネストホテル那覇 〒900-0036 沖縄県那覇市西1-6-1 TEL:098-868-1118

3. 学習講習会の講師

○仲里 尚実 氏(沖縄県保険医協会会長)

4. 主な企画

<11月23日(日)>

8:00 ホテル発(集合) 9:30 辺野古視察 12:30 昼食

13:30～14:30 高江視察 17:00 ホテル着 18:30 学習講演会

19:30 懇親・交流会

<11月24日(月・祝)>

8:30 ホテル発

9:10～10:10 嘉数高台(公園)

10:20 沖縄国際大学など

11:00 国際通り(解散)

参加費・交通費は兵庫協会が負担します

お申込み・お問い合わせは 兵庫県保険医協会 TEL:078-393-1807 担当:栗山まで